

# フェルテラ剤あるいはスピノ剤を含んだ 新しい育苗箱施用剤による フタオビコヤガ(イネアオムシ)の省力防除法

は種時覆土前～移植時に薬剤・50g / 箱を処理するだけで、  
フタオビコヤガを省力的に防除出来ます  
高いフタオビコヤガ防除効果と長い残効、多発ほ場でも安心です  
基本防除体系は新薬剤の育苗箱施用 + 穂ばらみ期の本田散布

フタオビコヤガの成虫と幼虫

フタオビコヤガ幼虫の食害のようす



成虫( )

体長約1cm  
羽の2本の帯模様が特徴です

幼虫(老齢)

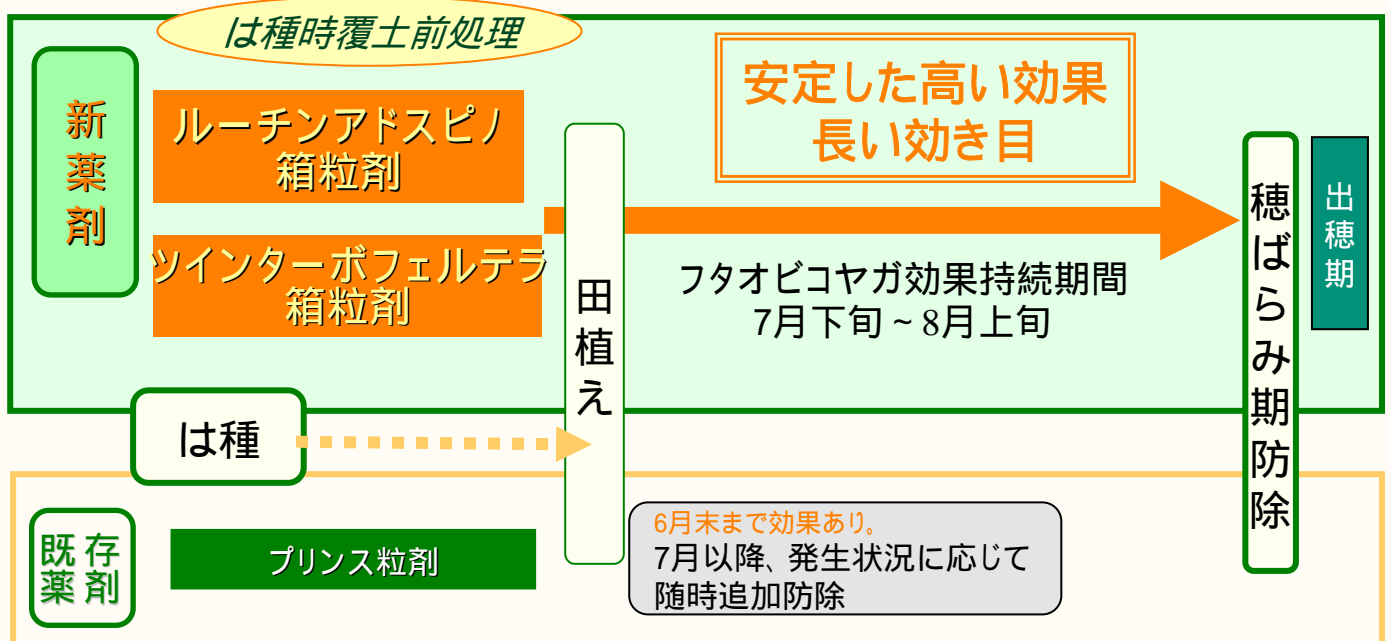
孵化直後は体長約1mm  
その後、約2cmぐらいになります

成長した幼虫の食害

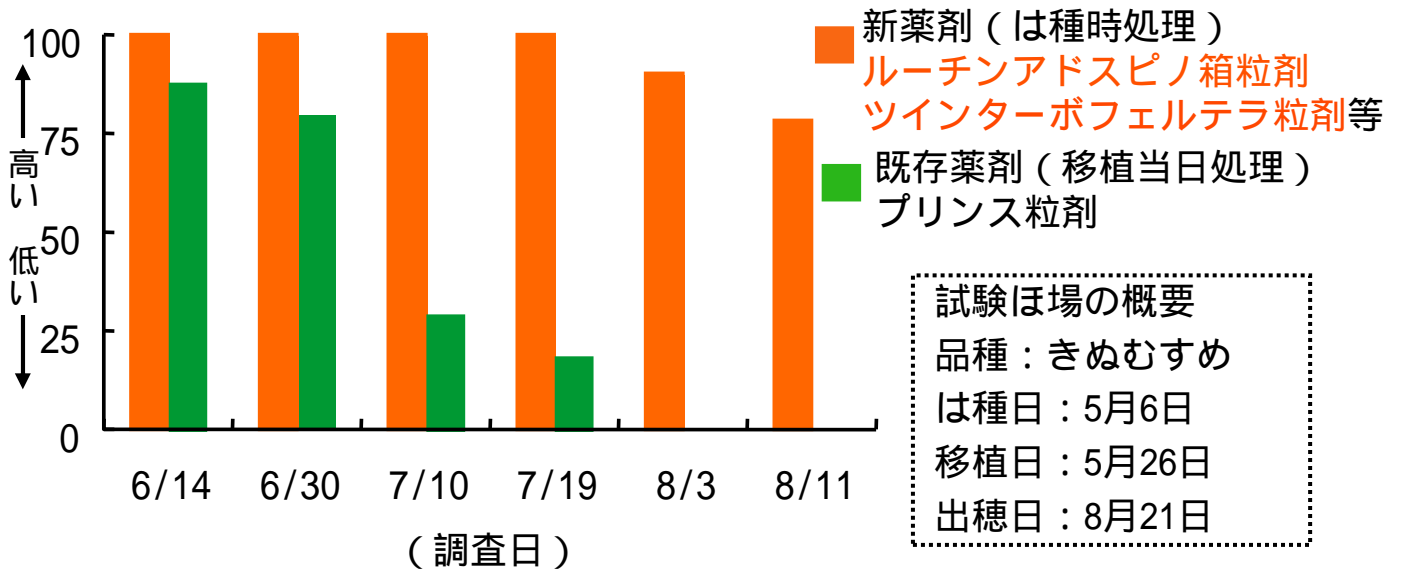
・葉を階段状に食べます  
・成長するにつれて食害量が急増し、葉を食べ尽くします

若い幼虫の食害

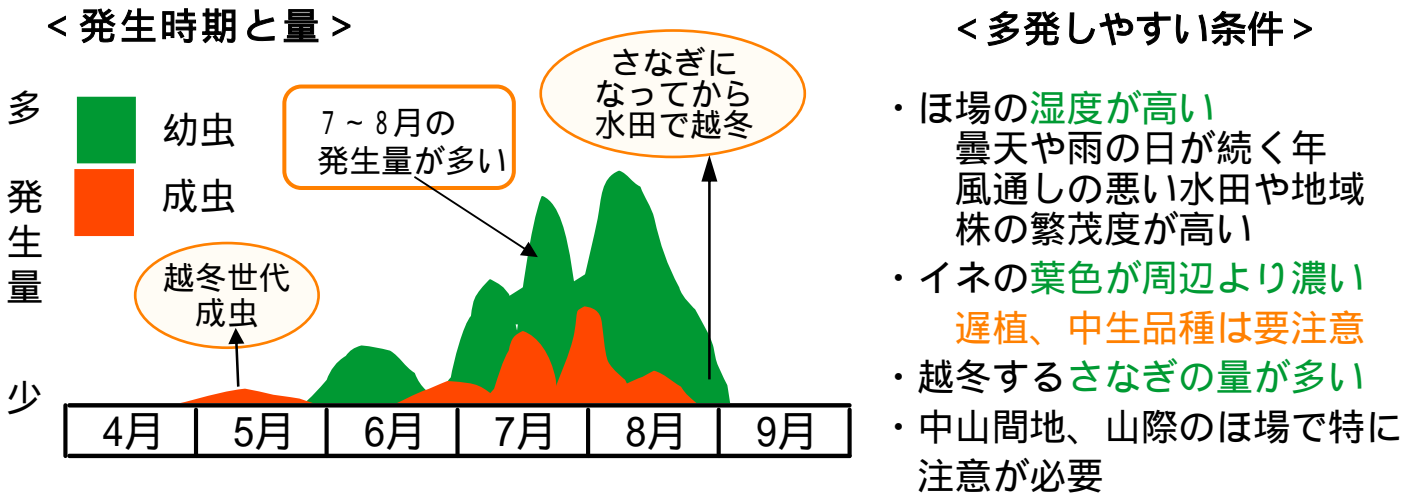
・白いカスリ模様を残して食べます  
・食害量は少ないです



## 【新規育苗箱施用剤と既存薬剤の防除効果の比較（は種時覆土前処理）】



## 【フタオビコヤガの発生生態】



## 【フタオビコヤガを防除する際の留意事項】

新しい育苗箱施用剤を使用したほ場においても、周辺ほ場での発生が非常に多い場合には、穂ばらみ期以前の追加防除が必要となるので、発生状況には十分注意してください。

追加防除のめやす（暫定版）は下記の条件がすべて満たされた場合です。

- ・発生の主体が約1.2cm以上の幼虫
- ・被害株率が90%以上
- ・食害面積率が10～20%の場合

育苗箱施用剤および粉剤とも薬量が不足すると防除効果が低下するので、規定量を丁寧に散布してください。